

子どもの居場所づくり 事例集



彩の国 埼玉県



埼玉県のマスコット
「コバトン」&「さいたまっち」

ごあいさつ

現在、長引くコロナ禍や物価高騰の影響を受けて、生活にお困りの家庭が増えており、子供たちを取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした状況の中、子ども食堂、学習支援、プレーパークなどの「子供の居場所」は、子供たちが安心して過ごせる居場所として、その重要性がいっそう高まっています。

また、子供だけでなく、地域にとっても、様々な人々が交流する貴重な拠点として、多くの役割が期待されています。

子供の居場所は、ご飯を食べたり、遊んだり、勉強を教えてもらうだけでなく、信頼できる大人と出会うことで、「自分は皆から愛される存在なのだ」という「自己肯定感」や「生きる力」を育む場としても期待されています。

埼玉県では、これから子供の居場所づくりに取り組む方や、子供の居場所活動を広げようと考えている方に、多くの好事例を紹介し、参考にしていただきたいと考え、毎年、県内のさまざまな地域で行われている先進的な子供の居場所づくりの取り組みを集めた「子どもの居場所づくり事例集」を作成しています。

今年度は、コロナ禍で活動が制限される中でも、子供たちとつながり続けるために工夫を凝らした活動や、子供の居場所の活動を支援する企業等の取り組み、地域の状況やニーズに応じた多様な取り組みなどを紹介しています。

また、本事例集では、「子どもの居場所づくりアドバイザー」を利用して新たに子供の居場所を立ち上げた事例も取り上げています。

アドバイザーには、子供の居場所の運営者をはじめ、衛生管理や広報の専門家など、多くの団体・個人が登録されていますので、自分でも子供の居場所を立ち上げたい、関わりたいとお考えの方は、ぜひアドバイザー制度をご活用ください。

子供たちが誰ひとり取り残されることなく、未来に夢と希望を持てる社会を実現していくには、本事例集を手に取っていただいた皆様方のお力添えが必要です。県としても、そうした皆様方の取り組みを全力で支援してまいります。

本事例集を通じて、それぞれに創意工夫を凝らした、地域ならではの子供の居場所が生まれ、活動が継続していくことを祈っています。

結びに、本事例集の作成にあたり、ご協力いただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます。

令和5年3月
埼玉県福祉部少子政策課長

目 次

こども食堂フォーラム基調講演（抜粋）	4
地域をつなぐ、社会をつなぐ、食堂に集う子供たちの力 栗林知絵子さん（認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長）	
県内180を超える子ども食堂をつなぐ 埼玉県子ども食堂ネットワーク	6
毎日、いつでも、なんでも話せる 志木のまいにちこども食堂	8
ない？！なら始めよう！町で最初の子ども食堂 みさと♡こども食堂みんな一緒に	9
熊谷生まれのキッチンカー子ども食堂 あい♡だいな～	10
豊かな地元体験で、未来が広がる オーシャンキッズ俱楽部	11
「学びたいけど学べない」を伴走支援 すぐすぐ広場 すぐすぐ小中高生勉強会	12
遊びと学びと食のハイブリッド支援 WAKU☆DOKIはっぴー	13
広がるプレーパークの価値づくり 埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会	14
笑顔で繋がる子供の居場所 プレーパークはんのう「EGAO」	15
高まるニーズ、奮闘する食支援のインフラ 埼玉フードパントリーネットワーク	16
町役場・社協・ボランティア、役割分担しながら継続 こそだて応援フードパントリーまつぶし	18
地域食堂からフードパントリーへ 日高こどなパントリー	19
県内事業所が地元でつながる食料支援！ 生活協同組合コープみらい	20
子供の貧困とフードロスの解決を目指す！ 「WeSupport Family」	20
子供の居場所と寄付者を結ぶ輸送支援！ 青翔運輸株式会社	21
子ども×野菜×体験で“食”を通した支援！ 株式会社ピックルスコーポレーション	21
埼玉県も応援しています こども応援ネットワーク埼玉 子どもの居場所づくりアドバイザー	22

※本誌では、「こども」の表記について、一般使用においては「子供」、団体名や事業名などの固有名詞においては各表記に従い書き分けています。そのため「子供」「こども」「子ども」の三通りの表記があります。

こども食堂フォーラム基調講演（抜粋）

地域をつなぐ、社会をつなぐ、 食堂に集う子供たちの力

栗林知絵子さん（認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長）

■活動を通して見えてきた貧困の多様な実態

豊島子どもWAKUWAKUネットワークは、豊島区を中心に子供を支援するNPO団体で、遊びのサポートから活動を開始しました。

2004年から「池袋本町プレーパーク」を運営する中で、「昨日からご飯を食べていない」「以前は車の中で暮らしていた」と話してくれる子供に出会いました。また、コロナ禍の食支援活動では子供だけで袋を持ってお弁当を取りに来る様子を見て、地域の方は、ひとり親の存在、地域の貧困問題に気づかされました。

私たちの基本は「あせっかい」です。プレーパークから始まった活動は、子供たちの声を聞く中で、無料学習支援や子ども食堂、ホームスタート、宿泊機能をもつWAKUWAKU ホーム、住まいサポートなど、さまざまに広がってきました。

コロナ禍では、プレーパークには相変わらず多くの親子連れが訪れます。子ども食堂ではお弁当を用意して子供たちに取りに来てもらったり、オンラインを使いながら学習支援をしたり、少し形を変えながら支援を続けています。

■行政にはない子ども食堂の強み

豊島区では、住民による支援が広がる中で、行政もひとり親支援を始めました。区が基金を創設して資金を集め、ひとり親家庭にお米を配付する「ライス！ナイス！プロジェクト」です。今年で3年目になります。

しかし、行政だけで行あうとすると、どうしても郵送になってしまいます。給付金もそうですが、ひとり親家庭への助成や手当、全てが銀行振込です。これでは、支援する過程で子供の貧困の実態は見えません。

そこで、私は豊島区に官民連携による取り組みを提案しました。具体的な仕組みは、お米の購入と児童扶養手当の受給世帯への案内までは行政が行います。そして区内21の小学校区に配布拠点をつくり、実際にお米を渡すのは地域のおせっかいさんの仕事です。利用者へ手渡しによる支援を行うことで、顔と顔が見える信頼関係を築いています。

■ネットワークの力、小地域でつながる重要性

コロナ禍においても、行政や社会福祉協議会の協力を得て、一緒に支援をすることができます。スムーズな連携ができたのも、コロナ前に子ども食堂や学習支援団体がネット

トワークとしてつながり、みんなでやろうという思いを共有できていたことが大きかったと思います。

豊島区では深刻になってから行政に相談に行くのではなく、心配レベル、予防の段階で困りごとを相談してもらい、時には生活保護に同行したり、住宅住み替えのサポートをしたりしています。このような「つなぐ」支援ができるのが、小地域のネットワークなのだと考えています。

■いつでも「おかえり」と言える、切れ目のない地域の子育て力

8年前に子ども食堂に来た女の子は、親を早くに亡くし、小6で児童養護施設に預けられました。コロナ禍の中で施設を出て、池袋に戻ろうとしたのですが、家賃が高いので難しいのではという周りの意見もあり、知り合いがない町で新たな生活をスタートしました。

飲食店に勤めたものの、コロナ禍で失職し、彼女は孤立しました。悪いループにはまって借金を重ね、豊島区に戻ってきました。

そんな中、彼女の友人がSNSを通じて私たちの所につないでくれて、地域で彼女を見守り、ついに20歳を迎えました。その後、予期せぬ妊娠、出産を経験しましたが、今は地域みんなで誕生した子供を育てようとながっています。

子ども食堂の良いところは、地域の人たちが子供たちとずっと伴走できるところだと思っています。地域の子供が戻ってきたら、いつでも「おかえり」と言える場所です。

子供が大きくなった時に、「自分たちはこの街のいろんなサポートを受けて成長したんだ。困ったときは相談すれば何とかなる。」と言える、そんな子供たちが増えることが私たちの目指す地域です。



◆栗林知絵子さんプロフィール

認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長

2004年から池袋本町プレーパークの運営に携わり地域活動を始める。自他共に認める「あせっかいあばさん」である。地域の子供を地域で見守り育てるために、プレーパーク、無料学習支援、子ども食堂など、子供の居場所を介し、子供と家庭を伴走的に支援している。





県内180を超える子ども食堂をつなぐ 埼玉県子ども食堂ネットワーク

◆民が主体、県域ネットワークの先駆け

コロナ禍にも関わらず、各地で増加傾向にある子ども食堂（以下、食堂）。そのひとつずつの県内の活動をつないでいるのが、埼玉県子ども食堂ネットワーク（以下、ネットワーク）です。民間による草の根の活動が主体となり、全国的にもいち早く誕生した県域ネットワークで、令和2年度からは一般社団法人となり、現在180を超える団体が加盟しています。

ネットワークでは、参加するそれぞれの食堂や活動の個性と主体性を大切にしながらも、県や県社協とも連携、オール埼玉で事業所からの大口の寄付や支援の窓口となり、寄付食品等の流通と分配を担い、県内の食堂の活動を支えています。

◆県内津々浦々の食堂に食材を届ける

ネットワークのホームページには、加盟する食堂をピンで記したGoogleマップが公開されています。▲埼玉県子ども食堂マップ（現在は182団体）県内自治体や社協、図書館には、紙版の大きなこのマップが掲示用に提供されており、インターネットにアクセスせずに地元の食堂を探すことができます。

色分けされた県内15の各エリアには、ステーションとキヤブテンが配置され、県内企業から持ち込まれる大量の寄付食品等の受取りと分配が、エリア毎に行われています。

食堂と利用する子供の数はともに増加傾向にありますが、コロナ禍と長引く不況で、企業からの寄付の先細りも懸念されています。ネットワークでは県域からの支援だけでなく、コンパクトな市町村域で食堂を支える連携や協力関係づくりも支援しています。

◆子ども食堂から子供の居場所

県内に広がる子ども食堂ですが、コロナ禍を経て変化が始まっています。

まん延防止対策として、一般的な飲食店同様に子ども食堂でも会食が制限され、お弁当配布や食材・日用品の提供など活動内容を工夫した結果、食支援を軸にしながらも、学習や生活支援、体験活動などを取り入れるようになりました。「子ども食堂」から「子供の居場所」への変化が始まっています。

子供たちと食堂を支える大人たち、一人ひとりがつながり、地域の信頼を育んできた食堂では、地元の自治体と連携して、食支援を超えた支援やケアの領域へと活動が広がってきたり、市内のネットワーク化に積極的に取り組む動きもあります。

ネットワークでは、こうした新しい展開に関する情報交換や相互交流も活発に行われています。



▲夏休みカレー大作戦県内30万食の支援

◆食堂運営とネットワーク、両立の課題

子ども食堂の主催者の多くが、子供たちの7人に1人が貧困と言われる日本の子供たちの深刻な現状に、居ても立っても居られず、手弁当で支援の腰を上げた人たちです。ネットワークの活動を支えているのは、なかでも思いの強い県民集団。自らが主催する食堂を運営しながらネットワークの運営を支える負担は、少なくありません。

県内を15エリアのキャプテンが協力し、加盟する食堂の状況を把握し、エリアや市区町村の様々な状況や課題に迅速に対応するために、組織としての本部機能の強化が期待されています。

◆多様化・拡充・スピードアップ・連携

ネットワークでは、「多様化・拡充・スピードアップ・連携」と「さらに多くの方々と『子ども食堂』を考える場として『埼玉県子ども食堂ネットワーク』を成長させる」という目標を掲げています。県内の子ども食堂の水先案内人として、支援の窓口として、寄付食品の供給ラインとして、子ども食堂の未来を照らす埼玉県子ども食堂ネットワークには、県内のみならず全国からの期待と注目が集まっています。



▲体験型支援（食農体験）も増えてきています



▲子ども食堂は地域のオアシス！

●埼玉県子ども食堂ネットワーク代表 東海林 尚文さんの思い

地域で子供を見守る温かい気持ちのある方に、子ども食堂・子供の居場所づくりをして欲しい。貧困問題だけでなく、「地域社会を作っていくことに、私達も参画できる」そういう活動になってきています。ぜひ一歩踏み出してください。いつでも、なんでも、ご相談ください。

【名 称】一般社団法人 埼玉県子ども食堂ネットワーク

【所 在 地】埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-3 大宮マルイ7階

【問 合 せ】TEL: 049-263-6951 (代表) E-mail: saitma.ks.net@gmail.com

Web: <https://www.saitama-kodomo.net>





毎日、いつでも、なんでも話せる 志木のまいにちこども食堂

◆私の町からなくしたい、子供虐待

10年前に民生委員を引き受け、地元で子供虐待があることを知り、衝撃を受けたことが、子ども食堂を始めたきっかけです。食堂開設の準備は、6年前、ひとりでの会場探しから始まりました。場所が決まって最初に、赤い大きな看板を掲げました。厳しいご家庭を支える活動ですが、こっそりではなく、堂々と支援したい。そんな思いから、志木のまいにちこども食堂は誕生しました。

◆共感し支える仲間、そしてNPOへ

毎日開催すると決めて、ひとりで始めましたが、やがて活動に共感する仲間が増え、今では毎日6・7人が曜日替わりで活動を支えています。

2年目に多くの方に勧められNPO法人になりました。正会員10人が集まり、申請し、晴れて寄付を募れるNPO法人になりました。現在、正会員14人、賛助会員36人、毎年毎月の会費が基礎です。

◆支え続けることで語られる困りごと

志木のまいにちこども食堂はその名が示すとおり、毎日、いつでも、支え続けることを表明しています。コロナ禍で休校や閉店、人流が遮断された時期も、弁当を作り続け、食品等を配付し、利用者とわずかでも繋がり、支援を止めることはありませんでした。困っているかこちらからは聞かない。でも、顔馴染みになると会話には、自然と子供のこと、家族のこと、日々の暮らしの困りごとが語られます。必要な支援の糸口は、毎日支え続けることで見えてきます。



▲食品無料配付の様子

●志木のまいにちこども食堂代表 山下 悅子さんの思い

子ども食堂を利用する方々に信頼され、弱音も愚痴も困りごとも、素直に話せる良い関係を築いていけたらと思います。もっともっと頼ってもらいたい。そして、志木には子ども食堂があるから子育てしやすい！と思ってもらえたら、とてもうれしいです。

Web▶



【名 称】志木のまいにちこども食堂

【開催日時】毎日（日・祝日休）

【開催場所】志木市中宗岡 4-18-31

【利 用 料】火木曜日無料、ほかは 100 円～300 円 ブログ掲載カレンダー要確認

【申 込 み】誰でも自由にご利用ください。食事は要予約（電話 or ショートメール）

【実施団体】NPO 法人志木のまいにちこども食堂

【問 合 せ】TEL : 090-3439-7403 E-mail : shikimai.shokudo 99@gmail.com

Web : <https://ameblo.jp/shikinomainichi/>



ない？！なら始めよう！町で最初の子ども食堂 みさと♡こども食堂みんな一緒に

◆やりたかった子ども食堂、美里町で実現

11年前に、車いすユーザーとして移動に便利な美里町に転居してきました。旅館経営をしていた頃、村の人たちと試食会を開催していましたが、以前住んでいた町に子ども食堂のような活動があったことから、ずっと興味を持っていました。家探しに町を巡る中で、美里町に子ども食堂がないことに気づきました。始める人がいたら手伝いたかったのですが、結局、自分が始めることになりました。

◆頼りの寄付食材と助成金

18歳までの子供がいる共働き家庭やひとり親家庭、75歳以上の一人暮らしの方を対象に、50食から始めて現在は70食に増えています。月2回、毎回30世帯ほどが利用されています。

地元の生産者や農協・養鶏所からの食材寄付で献立を決めていますが、肉や魚は購入することもしばしばです。社会福祉協議会とつながり、昨年、2つの助成金を得て、冷蔵庫、冷凍庫、空気清浄機、マスク、食材などを購入しましたが、スタッフの交通費や賃金には使えないのが悩ましいです。

◆世代を超えて受け継いでほしい

子供たちの体験につながり、食育にも貢献できる子ども食堂を目指して、野菜選びや代金の受け渡しに子供たちが活躍しています。車いすユーザーですが、誰かの役に立ちたいという思いは同じです。心のこもった食事が、必要な子供たちに届くよう、学校の近くに2・3軒の子ども食堂がある美里町が夢です。



▲みんなで頑張ってます😊

●みさと♡こども食堂みんな一緒に代表 寿々乃舞さんの思い

これから始めたいという方には、気張らずに挑戦してほしい。まずは月1回から始め、徐々に増やしていくべきです。県も社協さんも応援してくれています。共感してくれる人は、きっと現れます。

【名 称】みさと♡こども食堂みんな一緒に

Facebook▶



【開催日時】毎月第1・第3金曜日 17:30~18:30

【開催場所】埼玉県児玉郡美里町

【利 用 料】子供：100円・大人：200円

【申 込 み】完全登録予約制

Instagram▶



【実施団体】みさと♡こども食堂みんな一緒に

【問 合 せ】TEL：080-6680-0058 E-mail：himawarinoegao508@gmail.com

SNS：(Facebook) <https://www.facebook.com/misato.kodomosyokudou/>

(Instagram) <https://www.instagram.com/misato.kodomosyokudou58/>



熊谷生まれのキッチンカー子ども食堂 あい♡だいな～

◆料理人と協働し、親子支援に注力

食の提供と利用家庭の親子支援を、同時並行的に実践するのが子ども食堂の活動ですが、この二つを分業する方法としてキッチンカーに着目しました。

プロの料理人と協働することで安心安全で質の高い食が提供され、利用する親子の支援に私たちも集中することができます。駐車スペースがあれば、どこへでも子ども食堂をモバイルすることができます。キッチンカーを活用した移動式子ども食堂は、全国各地から注目されています。

◆ソーシャルビジネスとしての子ども食堂

子供と妊婦は無料、それ以外の方には定価販売です。無料分のコストを私たちが負担し、定価販売分がキッチンカーの売上になります。

協力キッチンカーは現在5社あり、北関東が営業エリア。遠方からの依頼には、現地で協力いただけるキッチンカーを探し、主催者を支援しながら開催につなげています。2020年1月から活動を始め、昨年は、熊谷14回、その他地域で6回、合計20回で開催は増加傾向にあります。

◆熊谷市から全国へ、移動式子ども食堂

多くの子ども食堂は、ボランティアや主催者の手弁当と寄付で支えられています。

一方、移動式子ども食堂は、営業場所とお客様を求めるキッチンカーと子ども食堂が抱える課題、双方を Win-Win の関係で解決し相乗効果が期待できます。

先頃、熊谷市の市民提案事業に移動式子ども食堂が採択されました。熊谷発の新たな子ども食堂として、各地に広めていきたいです。



▲熊谷市市民活動支援センターにて

●あい♡だいな～ 代表 奥野 大地さんの思い

子供の居場所をつくる活動が、県内に広がっていいって欲しい。助ける側の人をもっと増やしたい。そして、全国にキッチンカーを活用した移動式子ども食堂を広げたい。他分野との有機的な繋がりが、課題解決のヒントや力になります。つながりましょう。

【名 称】あい♡だいな～

Web▶



【開催日時】毎月第4日曜日

【開催場所】熊谷市内

【利 用 料】事前申し込み可

【実施団体】NPO 法人あいだ

【問 合 せ】E-mail : npoaida@gmail.com

Web : <https://npoaida.org/2020/08/11/aidinner/> 左記サイト内の問合せフォームから



豊かな地元体験で、未来が広がる オーシャンキッズ俱楽部

◆始まりは、商工会の支部活動

入間市商工会の支部活動として始まったオーシャンキッズ俱楽部の活動ですが、現在は、商工会の元を離れ、独立した活動として、海だけにこだわらない体験活動と子ども食堂を行っています。

体験活動は、子供たちの未来の選択肢が広がるよう、職業教育・職業体験を中心に防災体験やキッズ・チャレンジ・ショップなどを行っています。

◆体験のヒントは地域にある

「体験の貧困」が問題になっていますが、働く大人が見えにくくなり、子供の職業イメージも貧しくなっています。でも、探せば地域にはたくさんの仕事があります。

米作りひとつとっても、土づくりから田植えや雑草取り、稲刈りと、いくつもの作業があります。すべてを経験することで、農家の仕事がわかる。そんな「職育」を、地元を始めとした多様な事業者さんと実施しています。

◆再開が待ち遠しい、海の体験活動

入間市でケア型子ども食堂に取り組む「なかよし食堂」さんと協働で、子ども食堂を実施しています。食はなかよしさん、体験は私たちと、連携して活動しています。

毎年3泊4日の船上体験や造船所の見学など、海の体験活動をしていましたが、コロナ禍で休止していました。春の再開に向けて船会社と現在準備中。久しぶりに船の旅を再開する計画です。



▲本物を体験してもらう職育活動

●オーシャンキッズ俱楽部代表 磯田 英穂さんの思い

お金の支援だけではできない、心の支援をしていきたい。どの町にもある商工会が、子供の活動のつなぎ役になってもらえると、豊かな支援が期待できます。協力してくれる事業者さんのところへは県内外、どこへでも行きます。ぜひ声をかけてください。

【名 称】オーシャンキッズ俱楽部

【開催日時】不定期

【開催場所】主として入間市近辺及び臨海部

【利 用 料】事業ごとに変更 500円から5000円

【申 込 み】公式LINEまたはGoogle フォーム

【実施団体】オーシャンキッズ俱楽部

【問 合 せ】TEL: 070-5465-1098(平日10:00~15:00) E-mail: saitama@ocean-kids.club

SNS: (Facebook) <https://www.facebook.com/oceankids.club/>

(Instagram) <https://www.instagram.com/oceankidsclub/>



Facebook ▲ Instagram ▲



「学びたいけど学べない」を伴走支援 すくすく広場 すくすく小中高生勉強会

◆「わからない」と言える学び

すくすく広場で開催している「すくすく小中高生勉強会」では、本当は勉強がしたいけれど、様々な事情で家庭の学習環境が整っていないなったり、言葉の壁のある児童などの学習を支援しています。

毎週木曜日、市民プラザかぞの会場には、15名ほどの子供たちと10名弱のボランティアがやって来ます。宿題を見てもらったり、用意されたプリントに取り組んだり、ゲームやイベントで交流する姿もあります。学校や塾とは違う、子供の気持ちに向き合い、習熟度に応じた勉強会です。

◆学習支援と居場所、両立の難しさ

一生懸命勉強したい子と友達と話したい子…、いろんな思いで集まる子供たちを、同時に同じ空間で支援していく難しさ。教室には学習支援と居場所の間での両立の難しさが、常に同居しています。

ボランティアには元教員も多く、勉強を教える先生と自由に過ごしたい子供の気持ちの折り合いをつけるのも、気を揉むところですが、いつでも気軽に子供たちが来れる場所になるよう努めています。

◆環境に負けない気持ちを育てる

現在は、中学3年生の受験生に向けて、別日を設けて、特別にサポートをしています。

すくすく勉強会の子供たちの中には、塾に通っている子もいれば、学校にも行けない子、様々な状況の子供たちがいます。どんな環境にあっても自主的に学習できるようサポートし、子供自身の自己効力感が育つ場にしていきたいと願っています。



▲熱心に取り組む子供たち

●すくすく小中高生勉強会代表 増田 雄一さんの思い

すくすく勉強会の卒業生が訪ねて来てくれたり、近隣大学から学生ボランティアが来てくれたり、元教員だけでなく、若いボランティアも活躍しています。学ぶことが難しいあ子さんを手伝ってくれる方が増えていけば嬉しいです。いつでもお待ちしています。

Web▶



【名 称】すくすく小中高生勉強会

【開催日時】毎週木曜日午後 17:00~19:30（第5週は休み）

【開催場所】市民プラザかぞ 5階

【利 用 料】無料

【申 込 み】090-2411-8598（事務局 戸恒）に電話後、当人が見学して決める。

【実施団体】一般社団法人すくすく広場

【問 合 せ】TEL：090-2411-8598（事務局 戸恒）

Web : <http://k-sukusuku-hiroba.org>



遊びと学びと食のハイブリット支援 WAKU☆DOKIはっぴー

◆県内初の公民館を活用した子供の居場所

少年指導員の活動で、幾つもの厳しい家庭に出会い、食と学びの支援が切実に必要な子供の存在を知り、居場所づくりを進めなければという思いから、WAKU☆DOKI はっぴーの活動を始めました。

市内の2つの公民館で実施している、月2回の体験遊びと学習支援には、40人前後の子供たちが参加しています。困窮家庭の子供もいれば、発達障がい児もいて、多様な子供たちで賑わっています。

◆スマホキッズの感想文が変わった

企業からいただいたドリルなどを使い、元教師や現役教師のボランティアが、学習支援にあたっています。ゲームやスマホの影響で、子供たちのコミュニケーションがチャット状態になっているという問題意識から、毎回、文章の書き方を教わり、感想文を書くようにしたところ、子供たちの感想文が見る見る変わっていきました。

◆おにぎりが困っている子供を呼ぶ

WAKU☆DOKIのご飯のおかわりは、おにぎりにしています。最初の頃は「これ余っているなら、困っているお友達を持って行つていい?」と言う子がいました。「おにぎりは持って帰れないで、今度一緒に行こうと誘ってね」と伝えると、次は誘ってきてくれました。このように子供たちが活動を支えてくれるようになりました。

公民館職員の参加もあり、いざという時に必要な支援につないでくれます。子供の居場所が公民館にある意義は大きいのです。



▲難しいプリントにチャレンジ

●WAKU☆DOKI はっぴー代表 笠松 直美さんの思い

子供への期待ではなく、子供がしたいことを支援するのが大事。事業自体にゴールはないと考えていますが、子供の選択肢を増やす、子供たちの夢を叶える一助になる活動になればいいなと思っています。

【名 称】「遊びと学びと食」の事業WAKU☆DOKIはっぴー

Web▶



【開催日時】毎月第3、第4土曜日 10:00～13:00

【開催場所】第3土曜日：狭山市立水富公民館、第4土曜日：狭山市立広瀬公民館

【利 用 料】子供 100 円

【申 込 み】学校から年度当初に配布される申込書の提出、各公民館での申込み

【実施団体】NPO 法人地域教育ネットワーク

【問 合 せ】TEL：070-1410-8989 E-mail：area-e.network@p1.s-cat.ne.jp

Web : <http://www.area-e-network.com/>



広がるプレーパークの価値づくり 埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会

◆コロナ禍で、お父さんファンが増加

子供たちが禁止事項や制約から解放されて、自由に屋外で遊べる冒険遊び場＝プレーパークの必要性を感じる人が、世代を問わず増えています。最近では、コロナ禍によるテレワークなどで、子供と地域で過ごす時間が増えたお父さんたちが、プレーパークに出会い、ファンになる人も増加中です。

◆プレーリーダー基礎研修 by さぼれん

埼玉県内のプレーパークをつなぐ埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会、通称さぼれんでは、地域で活動を始めたい人や行政に、プレーパークの始め方やノウハウを提供し、情報交換や経験交流の集まりを設けています。プレーリーダーのための基礎研修講座も始まりました。子供理解に始まり、危機管理、環境管理、リフレクション(振り返り)の仕方、地域における意義など、現場実習も交えて学び、修了証が発行され、専門性を示す手段としても期待されています。

◆モバイルする冒険遊び場、プレーカーの試み

最近、県内で注目を集めているのが、プレーカーと呼ばれるモバイル(移動型)の活動です。ポックスカーに遊びの道具を詰め込み、あちこちの公園や森に出向いて、プレーパークを出前する活動で、プレーパークの開設に向けた助走の活動としても、効果が期待されています。



▲思いっきり落ち葉遊び



▲お父さんの参加がたくさん！

●埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会代表 佐藤 美和さんの思い

3年近く続いたコロナ禍で、地域で遊べることやつながりの大切さに気づいた人も多いと思います。そんな方はぜひプレーパークに遊びにきてください。子供だけでなく大人にとっても居場所となり、世代を超えてつながれる場です。

【名 称】埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会

Web▶



【問 合 せ】TEL : 090-7179-5436 (佐藤)

E-mail : saboren2007@gmail.com

Web : <https://saboren.jimdosite.com/>



笑顔で繋がる子供の居場所 プレーパークはんのう「EGAO」

◆アドバイザー派遣と実施研修をフル活用

プレーパークの動画を見て「自分もやりたい！」と情報を探す中、県の子どもの居場所づくりアドバイザーの派遣事業を見つけました。プレーパークを運営するアドバイザーさんに思いを語り、助言をいただき、冒険遊び場いるぱーくを3回ほど見学し、5ヶ月後には、飯能市で初めてのプレーパークが開催できました。



▲夏は盛大に水遊びをします！

◆行政を交えた事前協議を経てスムーズにスタート

わが家からも近い橋場公園がプレーパークの会場です。助言に従い、社協・市の子育て支援課・道路公園課・私の四者協議を事前に行いました。

一時、コロナ禍で失われつつあった子供の居場所。地域の為に新しく作りたいと思って開始しましたが、感染状況を鑑みてチラシの配布はせず、SNSだけで広報をしました。30名ほどの利用で、未就学児から小学校低学年児の親子、お父さんの参加も多く、家族の繋がりが生まれています。

◆保護者も一緒に、遊びを見守り、つながる場

人気の遊びは、家庭にあるうちわの骨やハンガーを再利用して遊ぶ特大シャボン玉。また、学びの要素が含まれている巨大絵本の読み聞かせも人気です。県社協の補助金・助成金や、地域の方の協力により材料を調達し参加費の徴収は一切していません。プレーリーダーは3人ですが、家族参加が多いので親御さんも我が子に限らず他の子供と交わって遊びを繰り広げています。

活動を始めて1年、継続が課題です。飯能の自然に触れる遊びや工作をしたり、飯能市社協との繋がりで「子供の居場所づくり」に貢献する交流もできたらと思います。プレーパークで生まれる笑顔が家族をつないでくれる。そんな居場所に夢が膨らみます。

●プレーパーク はんのう「EGAO」代表 岩渕 哲也さんの思い

生まれ育った飯能市で、子供や家族が笑顔になれて、ご近所の人たちと遊びながら自然に交流できる居場所として、プレーパークを育てていきたい。児童虐待の増加など暗いニュースも多いですが、のびのび遊べるプレーパークで、子供だけでなく家族みんなが笑顔になってほしいです。

【名称】プレーパークはんのう「EGAO」

【開催日時】毎月第3日曜日 10:30～12:00

【開催場所】橋場公園（〒357-0024 埼玉県飯能市緑町8-13）

【利用料】無料

【申込み】申込み不要

【実施団体】プレーパークはんのう「EGAO」

【問合せ】TEL：070-1536-5192（岩渕哲也）

SNS：(Facebook) <https://www.facebook.com/profile.php?id=100073296709044>



Facebook▲



高まるニーズ、奮闘する食支援のインフラ 埼玉フードパントリーネットワーク

◆困っている家庭と直接つながる力

世の中にはたくさんの支援があるものの、困窮している人たちは、自分が対象者だと気づかず、支援につながっていないことが、往々にしてあります。生活に追われていると、直接顔を合わせて、個別に声をかけないと伝わらないことがたくさんあります。食品だけではなく、情報や支援も直接届けられるのが、フードパントリーなのです。本当に困っている方につながる力が、フードパントリーにはあります。

埼玉県内では約4万世帯が児童扶養手当を受けています。埼玉フードパントリーネットワークでは、そのうちの4千人弱とつながっています。

◆新しい社会活動を形づくるネットワーク

フードパントリーは、まだ日本では新しい活動です。寄贈食品を渡すだけの簡単な活動と思われがちですが、配付するものが食品なので、衛生管理を徹底して、寄贈食品がどこからきてどこへ行くのか管理し（トレーサビリティ）、食品事故にすぐに対応できるようにすることが重要です。埼玉フードパントリーネットワークでは、フードパントリー活動が利用者の方々にも食品を寄贈してくださる企業にも信頼される活動として社会に広がっていくことを目指しています。将来社会のインフラとして地域に根付くといいなと思います。

加盟団体が増え活動が広がるほど、必要とされる食品量が増え、取り扱う食品量が増えます。それに伴って保管倉庫や輸送の負荷も高まり、物流はネットワークの大きな課題となっています。

物流は、食支援に取り組むフードバンクや社協にとっても共通する課題です。高まるニーズに応えるために、大きな枠組みで話し合い、一緒に解決するための取り組みを始めています。

◆子供支援を共通テーマに市町村でつながる

県内の子供支援に取り組む活動体が、市町村レベルでネットワーク化する動きが始まっています。

越谷市では、フードパントリー・子ども食堂・プレーパーク・学習支援などの団体が集まり、子供サポートネットワークが立ち上ります。



▲パルシステム埼玉さんからご寄付いただいた青果



▲フードパントリー立ち上げ支援の様子

市民団体同士が連携することで、複合的な課題への対応や困窮家庭への一体的な支援が行えたり、団体にとっても協働や効率化のメリットが期待できます。行政と話をするときにも、子供支援という枠組みで連携できます。

食品調達においても、地産地消のフードパンtriesを推奨しています。既に県内各所で好事例が出てきていますので、ネットワークを活かして経験交流しながら、ノウハウ共有して、地産地消のフードパンtriesも広げていきたいところです。

◆地域の駆け込み寺を作っていくたい

フードパンtriesでつながった家庭、そこで育つ子供たちを見ていると、なんでも相談できて、なんでも解決できる、駆け込み寺のような「こどもステーション」の必要性を感じます。

そんな夢のようなスポットが地域にあつたら、安心して子供を育てられる社会になるはずです。

子ども食堂やフードパンtriesのネットワークが形になってきたように、みんなで力を合わせれば、きっと実現できるでしょう。



▲むさし証券さんの店舗と駐車場をお借りして臨時パンtriesを開催



▲衣類や雑貨も配付しています

●埼玉フードパンtriesネットワーク理事長 草場 遼江さんの思い

地域には困りごとをひっそりと抱えている子供たちがたくさんいます。一人で始めなくて大丈夫です。何が始めたいと思ったときには、周りに同じ思いを持った仲間が必ずいます。ネットワークを大いに活用して、子供や社会を支えるために大切なこと、必要なことを一緒に学んでいきましょう。

【名 称】NPO 法人 埼玉フードパンtriesネットワーク
【所 在 地】越谷市千間台西 5-1-1 プラネせんげん台 306
【問 合 せ】TEL&FAX : 048-978-5774(草場)
E-mail : saitama.pantry.network@gmail.com
Web : <http://saitama-fpn.main.jp/>

Web▶





町役場・社協・ボランティア、役割分担しながら継続 こそだて応援フードパントリーまつぶし

◆助言と見学から、「できる活動」が明確に

子ども食堂やフードパントリーが松伏町にはないと聞き、昨年、ロータリークラブの地域貢献活動として取り組めないかと考え、県の子どもの居場所づくりアドバイザー派遣制度を利用しました。活動イメージの具体化に役立ち、自分たちができるることを検討した結果、まずフードパントリーを始めることにしました。

◆実感、小さな町にも困っている家庭が

町と社会福祉協議会とも協力体制ができ、今はロータリークラブから独立したボランティア活動として、フードパントリーを年4回実施しています。

配付対象のひとり親家庭に町役場が登録を促し、社協から一斉メールで開催をお知らせし、申し込んでもらいます。提供する配付食品の調達と事前の準備、当日の作業を私たちで担います。

現在、120世帯の登録があり、80～90世帯ほどが毎回受け取られています。小さな町なのに必要とする方がこれほどいらっしゃるとは、最初は驚きで、各地で活動が求められ広がっていることが納得できました。

◆郵便局がフードポストを設置

町内2つの郵便局が、食料品の寄付を受け付ける「フードポスト」を設置してくださっています。開催1カ月前からポストを出して寄付品を集めていただき、私たちが定期的に回収しています。

民生児童委員協議会や農家さん（お米、野菜）からも多数寄付があり、町民の温かさに支えられています。



▲社協さんの施設でパントリー開催

●こそだて応援フードパントリーまつぶし代表 里見 純庸さんの思い

物価の上昇の影響で食品ロスは減ってきているように感じますが、農協があ米など多めに提供してくれたり、工業団地からも食料提供のお申し出があります。いろんな方が関心を持ってくださっており、ありがとうございます。活動の負担が偏らないよう、長く活動を続けていきたいと思います。

【名 称】 こそだて応援フードパントリーまつぶし

【開催日時】 4カ月毎 第3土曜日 13:00～16:00

【開催場所】 松伏町ふれあいセンター

【利 用 料】 無料

【申 込 み】 必要

【実施団体】 こそだて応援フードパントリーまつぶし

【問 合 せ】 TEL：048-991-2700(松伏町社会福祉協議会) E-mail:foodpantry.matsubushi@gmail.com

Web : <https://health-counselor-22.business.site/>

Web▶





地域食堂からフードパントリーへ 日高こどなパントリー

◆やっぱり子供を支援したい

子供も大人もどうぞ、という思いで、日高こどな食堂を開催していたところ、お年寄りの利用が増え、子供が1・2割になってしまいました。そこで初心に立ち返り、フードパントリーの開催を考え、県の子どもの居場所づくりアドバイザー派遣制度を利用しました。周知方法やLINEの活用など、具体的なノウハウやアドバイスを得て2022年5月の開催に至りました。

◆公式LINEを活用した周知活動

パントリーは登録制で現在52世帯171人が登録されており、公式LINEで開催情報をあ知らせし、7割程度の38世帯前後が希望時間に受け取られています。配付場所は非公開です。食材は、セカンドハーベスト・ジャパン、埼玉フードパントリーネットワーク、埼玉県子ども食堂ネットワーク、社会福祉協議会経由で頂くもののほか、地域の方々、農家さんなどからも、お米や卵などを頂いています。

◆いつか、全小学校区でパントリーを

私たち夫婦とボランティアの3名で配付をしています。私費も投じて、食品保管の倉庫を用意しました。冷蔵品は経営する八百屋の冷蔵庫の一部を使っています。キューピーみらいたまご財団に助成金も申請して、費用の一部に活用しました。

切実に必要とされている支援ですので、長く続けていきたいです。日高市のいろんな所で受け取れるよう、仲間を増やして、小学校数の5~6ヶ所ぐらいまで増えればと考えています。



▲配布会場の様子

●日高こどなパントリー代表 中村 八男さんの思い

県内でフードパントリー活動が増えてきてるので、地域で支援してくださる方がもっといてほしいと考えています。地元の企業さん・産地さんにも協力していただき、一緒に活動していく仲間も増えると嬉しいです。

【名称】日高こどなパントリー

【開催日時】パントリーは第3日曜日に開催

【実施団体】ボランティア団体

TEL : 090-7288-5398 E-mail : hidakakodona@gmail.com

【名称】日高こどな食堂

【開催日時】毎月第2日曜日 昼12:00～なくなるまで

【問い合わせ】TEL : 090-7288-5398 E-mail : hachio12@yahoo.co.jp

Web : <https://kodomouuen.pref.saitama.lg.jp/map/kodomo/408>

Web▶





県内事業所が地元でつながる食料支援！ 生活協同組合コープみらい

コープみらいでは、埼玉県内30事業所でフードドライブ活動を実施しています。寄贈した食品は、フードバンクや社会福祉協議会などを通じて、生活困窮者、児童養護施設、子ども食堂などに提供されています。

2022年度は、コロナ禍で困難を強いられている世帯と、日本の米作り（米消費）を支援するために、「食べて 未来へつなごう 日本の米づくり応援キャンペーン」をテーマに、子ども食堂やフードパントリーなどへお米の提供を開始しました。県内各所にある事業所を活かし、支援団体が受け取りに来る負担を減らせるように、毎月複数の事業所で取り組んでいます。



▲コープ久喜店でフードドライブ活動に取り組む久喜高校の生徒たち

【企業概要】

企業名：生活協同組合コープみらい

Web▶



事業内容：宅配、店舗事業を中心に福祉や保障、サービス事業などを通じて、組合員の声に耳を傾け、一人ひとりの暮らしと地域に寄り添った事業を展開しています。

従業員：正規職員 3,254 人、パート職員 10,527 人



子供の貧困とフードロスの解決を目指す！ 「WeSupport Family」

一般社団法人RCF、オイシックス・ラ・大地株式会社、ココネット株式会社が連携して運営する「WeSupport Family」（代表:高島宏平）は、ひとり親世帯を中心とした困窮家庭向けの食品支援プロジェクト「WeSupport Family」を2021年12月から実施しています。

毎月食品をお届けしている支援世帯が1万5千世帯以上、累計支援世帯数は12万5千世帯以上の規模となりました。ご支援いただき企業様の余剰在庫なども活用することで、フードロスの解決にも寄与できればと考えています。埼玉県内では「埼玉フードパントリーネットワーク」と連携し、県内各地域のフードパントリーグループを通じて、次世代の食卓をサポートしています。



▲支援先の子供たちが書いた寄せ書き

【企業概要】

団体名：WeSupport Family

Web▶



事務所：東京都品川区

事業内容：ひとり親世帯を中心とした子供のいる困窮世帯を中心に活動している団体への食品支援



子供の居場所と寄付者を結ぶ輸送支援！ 青翔運輸株式会社

青翔運輸株式会社は、子ども食堂などが寄付品を受け取る際の輸送について協力しています。

令和2年7月、埼玉経済同友会のSDGs推進委員会で、7人に1人の子供が貧困状態にあるという現状を知り、自社でも子供の居場所に対する支援ができないかと考えました。

現在は、埼玉フードパントリーネットワークへの定期的な食品輸送や、突発的に大口の寄付があった際の輸送の支援を行っています。

SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて物流会社という立場から、物流業界の将来のため、誰もが安心安全で暮らせる地域のため、人と環境の未来のために、社員一同になって取り組んでいます。



▲子供の居場所へ支援物資を運ぶトラック

【企業概要】

Web ▶



企業名：青翔運輸株式会社 本社：埼玉県杉戸町

事業内容：一般貨物自動車運送事業・倉庫業・物流業務全般

従業員：110名



子ども×野菜×体験 で“食”を通した支援！ 株式会社ピックルスコーポレーション

株式会社ピックルスコーポレーションは、2021年から子ども食堂への寄付や食育活動、食品寄贈などの支援を行ってあります。食育活動では、ピックルスグループの施設やノウハウを活かして、野菜収穫体験とオリジナルキムチづくり体験をセットにした1日遠足企画を年に3回実施しています。

また、より多くの方に子ども食堂について関心を持っていただききっかけとなるように、一部商品パッケージの側面には子ども食堂を応援しているデザインを記載し、SNSやHPで情報発信を行っています。



▲野菜収穫体験・オリジナルキムチづくり体験



▲商品パッケージ側面掲載

【企業概要】

Web ▶



企業名：株式会社ピックルスコーポレーション 本社：埼玉県所沢市

事業内容：浅漬、キムチ等食品の製造・販売

従業員：308名

埼玉県も応援しています

■こども応援ネットワーク埼玉

貧困の連鎖の解消に向け、社会貢献活動などを行う団体・企業や個人のネットワークです。

会員の皆さんの得意な分野を活かし、自分たちでできることを自分たちで考えて実行することで、すべての子どもたちがチャンスと希望を持って、素敵なおとなれるような社会を目指しています。

◆どなたでも会員になれます

埼玉県内で下記の①～⑩の社会貢献活動を1つ以上実施する団体、個人ならどなたでも無料で会員になれます。

登録はホームページから行うことができます。

- ①金銭の寄付 ②子ども食堂等の子供の居場所づくり ③食材・物資提供、サービスの提供 ④体験活動の提供 ⑤学習支援 ⑥社員等のボランティア ⑦親子への支援（暮らし全般の援助） ⑧場所の提供・フードドライブBOXの設置 ⑨広報・啓発活動 ⑩その他の社会貢献活動・公益活動

★ホームページ

[\(https://kodomouuen.pref.saitama.lg.jp/\)](https://kodomouuen.pref.saitama.lg.jp/)



◆会員の皆さんを応援します

①マッチング

支援をしたいと考える企業や個人と支援を受けたいと考える団体とのマッチングをします。

②情報発信

会員の社会貢献活動などをFacebookから発信します。

★Facebook

[\(https://www.facebook.com/kodomouuen.saitama/\)](https://www.facebook.com/kodomouuen.saitama/)



③有益な情報を届け

セミナーやイベントの案内など、会員にとって有益な情報をメール・LINEでお届けします。

★LINE (ID : @376fsmug)



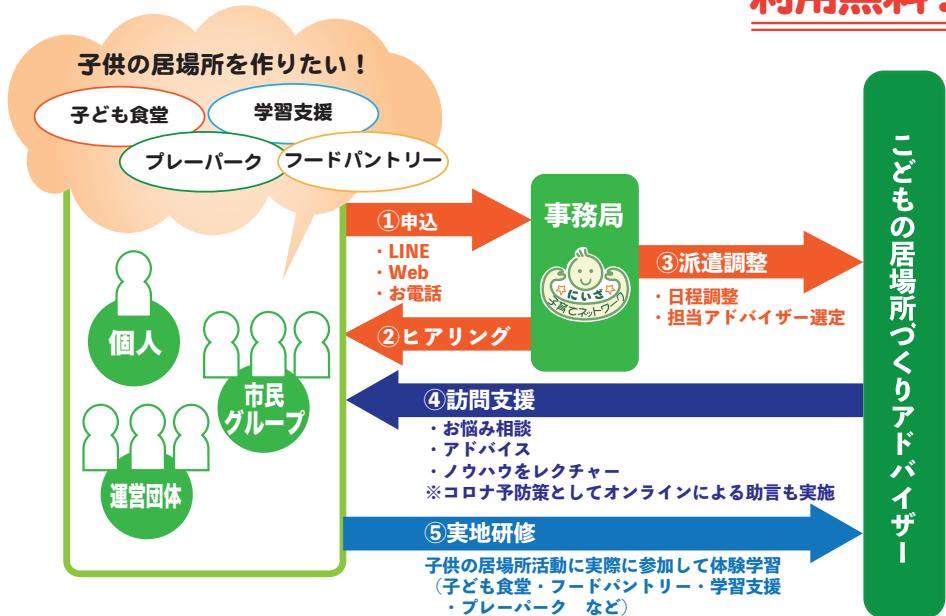
■こどもの居場所づくりアドバイザー

子ども食堂などの子供の居場所づくりに取り組みたいと考えていても、どのように活動資金や食材を集めたらよいか分からず、行動することをためらってしまう方も多いいるのではないでしょうか。

埼玉県では、子供の居場所づくりの実践者や、食品衛生・栄養・広報・福祉制度・法律・資金などに関する専門家をアドバイザーに任命し、子供の居場所づくりに取り組みたい方のもとに派遣しています。立ち上げ期のお悩み解決の手助けをしています。

●アドバイザー派遣の流れ

利用無料！



埼玉県
子どもの居場所づくり 事例集

●発行者・問合せ●

埼玉県福祉部少子政策課

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1

TEL 048-830-3348/FAX 048-830-4784 Email kodomouuen@pref.saitama.lg.jp

●発行日●

令和5年3月
